

# 軽トラックの提供

—学校の先生方の足の確保を！—



## 【軽トラック】

車は、田舎では必需品で、一軒の家には、大人の数と同じ数だけ車があると言われます。このことは学校にも当てはまり、津波に車が流されたことで、学校の先生方は、出勤する、仮設の市庁舎に行く、地域の方との相談に行くなど、何をすることも「徒歩」、あるいは、乗り合いでという状況が続いています。そういう中で、避難所に子どもの様子を見に行きたくても行かれない、そのことが、どうしても後回しになってしまうとの話もありました。このニーズは、支援を始めた最初に聞かれたことではありません。



そのような中で、支援活動の最初からガソリンの持ち運びについてアドバイスをくださっていた丸源自動車さんから、「自動車整備工場をしている友達のところに中古で廃車にしている軽トラックがあり、それは車検の費用のみで提供できる」というお話をいただき、小友中の加藤校長先生との協議の結果、前回の支援の時に、任意保険は小友中で準備することで調整がつき、今回の支援となりました。

加えて、市内全部のガソリンスタンドが被災し、営業のめどがたっていない状況にあることから、ドラム缶1本をガソリンで満タンにして提供してきました。

軽トラックは、200リットルのガソリンをつんで、700kmを走って陸前高田市まで移動し、そこで働くこととなりました。提供した軽トラックが、彼の地にあることで「頑張って」という願いも一緒に届けることができたような気がしております。軽トラックで高速道路を700kmの移動することに「不安」を感じる支援隊を「整備は万全だから心配ありません」と励ましていただいた丸源自動車の清水さん、クールモーターの天野さん、また、資金援助をいただきましたみなさま、ありがとうございました。

## 【新たなニーズ；水】

今回の震災のインフラの復旧で最も遅れるのが水で、上下水道の復旧の見通しは、半年後だそうです。この間、学校には、子どもの使用する水の確保が求められます。子どもの飲み水、手洗いの水、トイレの水です。ただ、この水の確保も市内一律には進められない状況があると言います。例えば、広田小中学校では、毎日数トンの水を屋上まであげることができ、それにより水道管を使って水を使用することができそうです。しかし、小友小中学校では、地形の関係で広田小中学校とは同じ方法を採用できず、結局、手洗いは消毒剤を使用し、飲み水はペットボトルで対応する見通しだそうです。自衛隊によって運ばれた水は写真ほどの量であり、今後、定期的に水の確保ができるのかどうか不透明とのことでした。このニーズに、1～2週間をめどに対応することをお約束してきました。



## 【当面の最大の課題；トイレ】

今回の訪問で、ニーズとして把握できたものの最大の課題だと思われるのは、トイレでした。上下水道が整わないことから、トイレは簡易式にならざるを得ない状況でしたが、それへの対応として小友小中学校に運ばれてきたトイレは、左の写真のようなトイレでした。ビニールシートで囲われた空間の中に、ステンレスの便座がおかれており、便座にはゴミ袋のようなものがかけられていて、それが溜まれば処理するようですが、現段階では汚物の処理方法も決まっていないとのことでした。緊急避難の一時的なトイレならばまだしも、小学生が、半年間、このトイレを使うかと思うと、かなり無理があるのではないかと思います。最低でも、建築現場で使われているような仮設のトイレが必要であるのではないかと思います。



加藤校長先生の話によると、このように一度支援がなされると、「これでは困る」と言っても、なかなか別のものには置き換わらないとのことでした。私たちの支援の始まりも、現場のニーズがなかなか吸い上げられていないことから始まったものですが、そのようなことが震災後1ヶ月を過ぎても続いている様子に、もう少しきめ細やかに対応できる仕組みができないものかとあらためて思いました。

**建築現場で使われている仮設のトイレ、夏までの半年間、安く貸し出してくれる業者がありましたら、是非、事務局までお知らせください。**

## 【すたんどばいみーによる子ども支援】

今回よりモビリア避難所にいる子どもたち、また、そこに遊びに来ている子どもたち向けの支援が、神奈川県の一歩団地で活動する、外国人の子どもたちの当事者団体である「すたんどばいみー」のスタッフによって始まりました。土曜日の9:30～12:00が第1部、13:00～15:00が第2部、日曜日の8:30～10:00が第3部の三部構成で企画されていて、それぞれで何をするのかも、いくつかの選択肢の中から、意見を出し合って決めていました。

すたんどばいみーのスタッフによると、子どもたちは今回の企画を楽しみにしていたのか、時間になると予想以上の子どもたちが集まってきたそうです。また、年上の子どもは年下の子どもの面倒を見ることはあたり前になっているので、スタッフの指示がなくても自然と助け合いが始まるようです。さらに、多少飽きてイヤになっても、最後までやり通すといったような感想も聞かれました。普段、すたんどばいみーのスタッフが面倒を見ている外国人の子どもたちとは、違った様子の子供たちであるようでした。



写真はみんなで籠作りをしているところですが、土曜日の午後は3時間近くかけて、参加者全員が籠を完成させ、最後には自分で作った籠と一緒に、一人1枚の写真撮影が行われました。

すたんどばいみーのスタッフが避難所を訪れるのは、今回で2回目ですが、スタッフも名前と呼ばれたり、外国人であることを珍しがられていろいろ聞かれたりと、すっかり打ち解けた様子です。

### 【雑感】

支援活動を始めて、半月がたちましたが、その中で、支援を必要としている側の「ニーズ」と支援を提供する側の「善意」の接続は、簡単なことではないとあらためて感じているところです。支援隊は、ちょうど「接続」の役目を担っていますが、支援者の「善意」とは言え、その量と質を、被災地のニーズに合わせるのは、簡単ではありません。「新品」の物資がすぐに手に入らないのであれば「中古」でもという状況ではありますが、「新品」が間に合いそうもないので「中古」を集め始めたら、「新品」が手に入ることになり、「中古」の処理が必要になります。「中古」を提供して下さった方に、「すみません」と言いながら引き取っていただいたり、あるいは「処分してください」との回答にゴミを出すことになったりと、始めてたった半月なのに、調整の難しさを感じる場面は多々あります。また、集まった物資を現地で使いやすい形に整える作業にも時間がかかります。今回のジャージ類の整理には、大和中学校の女子バレー部のみなさんが手伝って下さいました。支援活動を継続するためにも、よりよりマッチングの方法や、提供物資の整理の方法を、いろいろ探っていく必要があると思っております。

### 【今後の支援の予定】 4月17日現在

#### ■4月23日～24日（22日夜発）の第4回支援

○小友小中学校 主な支援物資：部活動用具、保健室  
その他の物資：色画用紙・色上質紙

○広田小中学校 主な支援物資：自転車ヘルメット、ジャージ類、紙

○モビリア避難所 子どもたちとの遊びと学習支援（すたんどばいみー）

#### ■4月30日～5月1日（29日夜発）の第5回支援

○トイレや水の提供にこぎ着けたい

### 【ご協力いただきたいこと】

#### 1. ご提供いただきたい物資

##### ■現地への提供物資

○軽トラックなどの車（10万円程度で車検2年ぐらい）

○部活動用具を収める物置

○軟式野球のグローブ（新品に近いもの）

##### ■支援のための必要物資

○イベントの必需品（テント・軽い折りたたみ椅子）

○ガソリン運搬用タンク（20リットル）

※ご提供いただけそうな方はご一報ください。ニーズの調整を行います。

#### 2. 同行していただける方

金曜日の夜8時大和市付近を出発、帰りは日曜日の夜8時の予定です。

運転が好きな方は大歓迎ですが、もちろん、運転できない方でも参加可能です。

※参加可能な週末をお知らせください。

### 【ご協力に感謝!!】

■今回の支援隊のメンバー（8人） 家上幸子（Ed.ベンチャー事務局長）、  
柿本隆夫（引地台中学校）、清水睦美（東京理科大学）、洲崎仁美（大和中学校）、  
グイキムチャーイ（会社員）、金子尚弘、すたんどばいみー：西岡歩・劉麗鳳

#### ■小友小中学校

○提供された物資による支援：

軽トラック、ガソリン用ドラム缶、ジャージ類、わら半紙、文房具類  
スポーツ用品（ボール類）

○寄付からの買い出しによる支援：

軽トラック車検（2年）、ガソリン260リットル、レターケース

#### ■モビリア避難所

○寄付からの買い出しによる支援：駄菓子

#### ■ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）4/9～4/15

丸源自動車（清水真澄）、クールモーター（天野祐二）、五丸屋スポーツ、  
田名スポーツ、モワススポーツ、ミズノ渡辺、北澤毅（立教大学）、  
有本真紀（立教大学）、内田良（名古屋大学）、小林西子（東京理科大学）、  
吉田民江・松丸弘美（東京理科大学）、関口早苗（元中学校教諭）、  
工藤美和子（大和中学校）、井上公子（大和中学校）、遠藤亜生（大和中学校）、  
清水いく江、清水雄策（伊那中央病院）、清水美枝

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン）

### NPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

4月14日の活動報告会にて、Ed.ベンチャーの本年度の事業として承認されました

